

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
理事長	山下 静也
診療局参与	永井 義幸
主任部長 兼心臓・血管センター副センター長 兼リハビリテーションセンター副センター長	習田 龍
部 長 兼健康管理センター副センター長 兼先進医療開発センター長 兼ドクターサポートセンター長 兼認知症ケアセンター長兼産業医	増田 大作
部 長	牧野 信彦
医 長	村木 良輔
医 長	正木 豪
医 長	義間 昌平
副医長	阿部 誠
非常勤医師	迫 恒志 (4月退職 1月入職)
非常勤医師	小山 訓
非常勤医師	福田 忠浩

＜特色と概要＞

当院は、泉州地域の医療圏の要となる病院として、院内に救命救急センター、母子医療センター、感染症センターなどの高度な医療センターが集積する三次救急医療センターである。このことから、これら救急部門からの多くの症例が当循環器内科へと転科してくることにより、多彩かつ重症の急性期の循環器疾患が多く診療されている。さらに、広い泉州の多くの連携医療機関から急性期・慢性期を問わず多くの循環器疾患や循環器疾患を疑う症状を訴える患者が紹介されている。その上、当院の他科やこれら連携医療機関で治療中の他の疾患に合併する循環器疾患に対しても治療を行うことから、当院の循環器内科医は循環器領域の知識のみならず、他科に関連した総合的な幅広い領域の知識が要求される。このため、日々診療技術の向上に努めつつ連携医療機関や他科と協調して診療にあたっている。

当科の診療実績としては次項に示す通りである。数多くの循環器疾患及びその関連疾患を救命救急センターや救急外来、また近隣のプライマリケア医から継続して受け入れている。疾患としては多岐に渡り、近隣のご協力もあり外来患者数、入院患者数とも増加している状態にある。疾患としては虚血性心疾患(心筋梗塞・狭心症)、心停止、致死性不整脈や心房細動・粗動、末梢血管疾患や弁膜症、感染性心内膜炎など多くの疾患が該当している。特に、当院の特色としての救急症例の多さが挙げられる。また、脂質異常(遺伝的な原発性のものを含む)や睡眠時無呼吸症候群

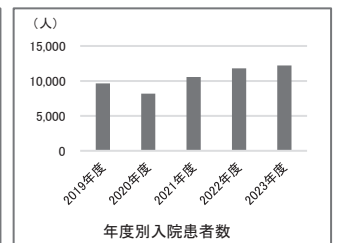
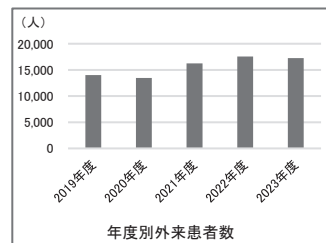
など、心血管疾患の一次予防・二次予防に対しても専門的な治療を継続して行っている。

＜実績＞

- ・外来患者数、入院患者数(延べ人数)
- ・入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位50まで)
- ・循環器内科の検査・治療数

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2019年度	14,022	57.9	9,647	26.4
2020年度	13,453	55.4	8,179	22.4
2021年度	16,237	67.1	10,564	28.9
2022年度	17,557	72.3	11,806	32.3
2023年度	17,246	71.0	12,213	33.4



入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位50まで)

(期間2023/4/1-2024/3/31退院)

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
虚血性心疾患		
無痛性<無症候性>心筋虚血	I256	230
その他の型の狭心症	I208	141
急性心筋梗塞, 詳細不明	I219	74
狭心症, 詳細不明	I209	42
陳旧性心筋梗塞	I252	40
不安定狭心症	I200	24
慢性虚血性心疾患, 詳細不明	I259	20
記録されたれんく攣>縮を伴う狭心症	I201	9
急性虚血性心疾患, 詳細不明	I249	9
前壁の急性貫壁性心筋梗塞	I210	7
下壁の急性貫壁性心筋梗塞	I211	3
アテローム<粥状>硬化性心疾患	I251	2
不整脈		
発作性心房細動	I480	73
心房細動及び心房粗動, 詳細不明	I489	63
持続性心房細動	I481	52
上室(性)頻拍(症)	I471	29
心臓電子器具の機械的合併症	T821	29
房室ブロック, 完全	I442	19
洞不全症候群	I495	15
心室性早期脱分極	I493	9
房室ブロック, 第2度	I441	8
その他及び詳細不明の房室ブロック	I443	5
心室(性)頻拍(症)	I472	4
心室細動及び粗動	I490	4
心房細動及び粗動	I48	3
慢性心房細動	I482	2
心不全・心筋疾患・心停止		
心不全, 詳細不明	I509	116
うっ血性心不全	I500	74

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
蘇生に成功した心停止	I460	5
その他及び複合部位のサルコイドーシス	D868	3
失神及び虚脱	R55	4
拡張型心筋症	I420	2
弁膜症・心膜疾患・肺血管疾患		
急性肺性心の記載のない肺塞栓症	I269	9
原発性肺高血圧(症)	I270	6
心膜の疾患, 詳細不明	I319	5
その他の診断名不明確な心疾患	I518	5
急性及び亜急性感染性心内膜炎	I330	2
大動脈弁閉鎖不全(症)	I351	2
拡張型心筋症	I420	2
大血管疾患・末梢血管疾患		
全身性及び詳細不明のアテローム<粥状>硬化(症)	I7090	25
(四)肢の動脈のアテローム<粥状>硬化(症)	I7020	16
大動脈の解離[各部位]	I710	10
(四)肢の動脈のアテローム<粥状>硬化(症)	I7021	5
全身性及び詳細不明のアテローム<粥状>硬化(症)	I709	5
下肢のその他の深在血管の静脈炎及び血栓(性)静脈炎	I802	3
心血管リスク因子(高血圧・睡眠時無呼吸など)		
睡眠時無呼吸	G473	31
本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	I10	2
その他の疾患		
コロナウイルス感染症2019, ウイルスが同定されたもの	U071	6
食物及び吐物による肺臓炎	J690	3
無酸素性脳損傷, 他に分類されないもの	G931	2

検査治療数集計

診療明細名称	件数
心臓カテーテル検査	486
心臓カテーテル法による諸検査(左心)	418
心臓カテーテル法による諸検査(右心)	68
冠動脈カテーテル治療	719
経皮的冠動脈形成術(その他のもの)	237
経皮的冠動脈ステント留置術(その他のもの)	206
経皮的冠動脈形成術(不安定狭心症に対するもの)	67
経皮的冠動脈血栓吸引術	66
経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症に対するもの)	57
経皮的冠動脈形成術(急性心筋梗塞に対するもの)	35
経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞に対するもの)	32
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) (高速回転式経皮経管アレクトミーカテーテルによるもの)	16
経皮的冠動脈粥腫切除術	3
経静脈ペースメーカー	33
ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)	33
リードレスペースメーカー	15
ペースメーカー移植術(リードレスペースメーカーの場合)	15
植え込み型除細動器(ICD)	6
植込型除細動器移植術(皮下植込型リードを用いるもの)	3
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの)	1
植込型除細動器交換術(その他のもの)	1
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)	1

カテーテルアブレーション	196
経皮的カテーテル心筋焼灼術(心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの)	162
経皮的カテーテル心筋焼灼術(その他のもの)	34
冠動脈CT検査	596
冠動脈CT撮影加算	596
経食道心臓エコー検査	143
超音波検査(心臓超音波検査)(経食道心臓エコー法)	143
血管内超音波検査	1
血管内超音波検査加算	1

(診療報酬請求の番号の発出を元にカウントした件数)

<今年度の反省と来年度への抱負>

- ・今年度もCOVID-19への感染予防対策を適切に行いつつ、例年どおり循環器診療を行い地域医療に貢献した。
- ・昨年度から人員としては変動ないまま患者数の増加に創意工夫で対応している。
- ・疾患としては虚血性心疾患や心不全が中心ではあるが、習田部長の専門とする下肢血管疾患、牧野部長の専門とする不整脈疾患、山下理事長・増田部長の専門とする脂質異常・睡眠時無呼吸症候群などの専門分野に対する紹介や症例の集積も次第に増加している。特に、治療困難例など多数の患者を地域の健康診断及び他院から御紹介いただき、適切な診断と治療介入を行うことで地域医療及び予防に貢献した。
- ・特に、治療としての冠動脈カテーテル治療(PCI)、末梢動脈カテーテル治療(EVT)、ペースメーカー、不整脈アブレーション(ABL)など侵襲的治療を積極的にを行い、いずれも順調に増加している。これらの治療の事前検査としての心臓カテーテル検査、EPS、心臓CT、エコー検査、さらに精密PSGの外来・入院検査が順調に増加している。
- ・三次救急重症循環器疾患に対して、高度画像診断機器(320列CT:2台、80列CT:1台、3Tと1.5TのMRI、放射線アイソトープ)を多数保有している当院の利点を最大に生かし、速やかに診断と治療に結びつけることができた。
- ・国内、国外の学会に臨床研究に関する報告や学会・講演会での発表を多数行った。多数の英文原著論文・総説を著名雑誌に報告し、Rinku General Medical Centerの名を世界に広めることができた。
- ・今年度も残念ながらCOVID-19による循環器病棟クラスターに複数回見舞われたが、今までに得られた知見を活かして感染対策を行うことで、医師、コメディカル一丸となって泉州地区の循環器診療の維持、継続に寄与できた。
- ・引き続き重症三次救急例や(近隣の)病診連携医からの紹介例に適切に対応し、侵襲的治療件数をさらに伸ばすべく尽力したい。